

平和を希求する心を育てる取組

報告年月日 平成30年10月18日  
 都市名・国 広島市

取組の名称	高校生と被爆体験証言者による「原爆の絵」の共同制作
実施主体 (該当項目に✓)	<input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 自治体 <input type="checkbox"/> NGO <input checked="" type="checkbox"/> 複合((公財)広島平和文化センター・広島市立基町高等学校)
テーマ・目的	被爆の実相の理解促進・青少年の育成・記憶の継承・核兵器廃絶
対象者 (年齢・学年、人数等)	高校生：～20人程度、証言者：～10人程度(その年の制作希望に応じた人数)
実施場所	広島市立基町高等学校・広島平和記念資料館
実施期間	例年の制作スケジュール 5～6月：制作希望の取りまとめ → 夏～秋：顔合わせ・制作開始 → (約一年間の制作期間) → 翌年夏：完成披露会の実施 通年：完成した絵又は絵を撮影した画像データ等の活用・提供
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次の3点を目的にこの取組を行っている：①被爆体験証言者の記憶に残る被爆時の光景を高校生が絵に描き後世に残すこと、②記憶を視覚化し、被爆の実相を伝える教材・視覚材料として活用すること、③絵の制作を通して高校生が被爆者の思いを受け継ぎ、平和の尊さについて考えること。</li> <li>・ 一年間の制作期間中、高校生は証言者と10回以上面会を重ね、何度も証言を聴き、幾度となく絵を描き直し、記憶に残る光景に近づけていく。</li> </ul>
	<p>参加者の反応</p> <p>制作した高校生から、「被爆から70年以上が経った今でも消えない傷跡から、原爆の恐ろしさを改めて感じる事ができた一年だった。」「話を聴いて、それを理解するだけでなく、伝える立場にならなければならない、受け取るだけでなく、私達が次の世代に伝えていかなければならないという事に気付かされた。」という声が寄せられている。</p>
	<p>成果</p> <p>これまで11年間この取組を継続し、37人の証言者と110人の生徒等との共同制作により126点の絵が完成している。完成作品は被爆体験講話や伝承講話での活用に加え、複製画を作り貸し出したり、一般からの申請に応じて絵を撮影した画像データを提供するなど、広く被爆の実相を伝えることに活用している。絵の制作を通して、高校生は証言者の被爆体験をいわば追体験し、核兵器の脅威について、現在進行系の、我が身に迫る問題として捉え、また平和の尊さについて自身の言葉で発信できるようになる。被爆体験を何度も聴き、当時の惨状を絵に描き起こすことはハードな作業であるが、これまで110人、誰一人として途中でギブアップせず絵を完成させている。これは、証言者の「自分には時間がない、一人でも多くの人に伝えなければ」という真摯で切迫した思いに強く感化され、平和を希求する気持ちが芽生えるからと考えられる。</p>
	<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国各地での展示会や絵の制作を主題としたドラマの放送、各種報道などを受け、この取組が全国的に知られるようになってきた。それに伴い、平和記念資料館への問い合わせ・貸出等申請・取材依頼の件数が以前の数十倍に急増しているため、実施体制の整備が必要である。</li> <li>・ 高校では通常授業の枠外の課外活動として取り組んでいる中、注目度の高まりに伴い、マスコミ対応など外部への対応等、美術教員への負担が増えている。また、この絵の制作を主導し、指導できる(後継)教員の育成が急務である。</li> <li>・ 迫力のある原画を広く見てもらいたいが、保存・管理の観点から通常輸送が難しく、展示の機会が少ない。このため、梱包資材を工夫しつつ、確実・安全かつ比較的安価な輸送方法を確立する必要がある。また、原画に代わり、絵を高解像度で撮影し、高画質データを提供することや、肉筆に迫る複製画を製作(印刷)することが喫緊の課題と考えている。</li> </ul>
	<p>取組で使用した素材について</p> <p>資料館の展示、参考書籍、映像、写真、絵、被爆体験証言用のパワーポイントなど</p>
	<p>上記素材の共有の可否(取組で使用した素材を、平和首長会議のWEBサイトに掲載し、他都市と共有することに、著作権その他の問題がないか、次からお選び下さい。)</p> <p><input type="checkbox"/>掲載可能(素材を添付してください) <input type="checkbox"/>掲載不可 <input type="checkbox"/>不明</p>

※ 画像等の資料がある場合は別ファイルで提出してください。

# — 高校生が被爆体験を絵に描く —

## 基町高校の生徒と被爆体験証言者との共同制作による「原爆の絵」

広島平和記念資料館では、広島市立基町高等学校普通科創造表現コースの協力を得て、2007年度（平成19年度）から、被爆体験証言者と同校生徒が共同し、証言者の記憶に残る被爆時の光景を高校生が絵に描き、当時の状況を伝える「原爆の絵」の制作に取り組んでいます。

この取組は、被爆者が高齢化するなか、被爆の実相を絵画として後世に残すこと、そして、絵の制作を通して、高校生が被爆者の思いを受け継ぎ、平和の尊さについて考えることを目的として行っています。

何度も打ち合わせを重ねながら制作される絵は、当時の惨状を克明に描き出すものであり、また、証言者の記憶や思いに高校生が寄り添い、双方の気持ちを共に伝えるものです。

被爆体験の継承の一つの形として、一人でも多くの方に絵をご覧いただければ幸いです。

### [制作方法]



① 証言者の被爆体験を詳細に聴き取る。



② 証言者が描くイメージ図や、わずかに残る写真資料をたよりに、構図を練る。



③ 色を重ねながら、光景を忠実に再現していく。



④ 1年の制作期間中、何度も証言者が絵を確認し、直しながら完成を目指す。